

介護保険サービス自己評価表

(評価期日)

令和4年7月1日

(事業者名)

社会福祉法人 友愛

(事業所名)

カナリヤグループホーム

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570700076
法人名	社会福祉法人 友愛
事業所名	カナリヤグループホーム ユニット結
所在地	滋賀県守山市三宅町833
自己評価作成日	令和4年7月1日
	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍での衛生面の配慮をしながら、昼食を利用者様と一緒に作っている。
散歩やドライブ(少人数)に出るなど、外気に触れ季節感を感じていただけたら嬉しい。
季節ごとの行事を企画し、季節感を感じ、予定を作り楽しみに出来る事があるようにしている。
季節を感じる貼り絵などをレクリエーションで利用者様と作成している
LINEを取り入れた動画での面会や、写真を添付して状態の報告をする事で面会できない家族様に少しでも安心していただけるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見ても、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見ても、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

「わからない」ところは、聞く・調べるなどしてすべてを埋めること！
(それも学びにつながります)

ユニット結

外部 自己	項目	自己評価 2022年7月
I. 理念に基づく運営		
1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの高義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、職員室に掲示し、定期的に確認する機会を持ち理解できている。コロナ禍で外に出る支援が散歩と時折のドライブ程度になっっている。
2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りなどは規模を小さくして再開している所もあるが、感染の懸念があるため参加はしていない。 散歩の時に挨拶をする程度になっている。
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人人々に向けて活かしている	運営推進会議などを通じて認知症の方との関わり方を発信している。高校生の実習の受け入れをして認知症について学ぶ機会を作っている。
4	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現場の実情や課題などを報告している。またグループホームだよりなどを使い日々の活動も知っていたできるようにしている。会議録を回覧し、職員全員に周知できるようにしている。
5	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	集団指導や文書交付・事故報告などの機会に市の担当者や情報交換をしている。
6	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施設は一昼夜行ってしまうている。日中は利用者様の要望があればすぐに開錠出来るようにしている。身体拘束の定期的な研修を行っている。日常の中でスピーチロックと捉えられかねない声掛けはあり、改善に向けて研修や職員同士の声掛けも行っている。
7	○虐待の防止の徹底	

自己	外部	項目	自己評価
			2022年7月
8	<p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p> <p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>定期的な研修を通して字が横雲を設けたい。スピーチロックなど、無意識のうちに虐待につながるような職員間で声掛けを行っている</p> <p>現在当該制度を利用して入居者はいない。研修等を通して職員が制度の理解を深めて行く機会を作っている。</p>	
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者が入居時に契約書等を読み上げながら説明し、その場で疑問点を確認するようにしている。変更時には文書での連絡、面会時に再度説明をおこなっている。</p>	
10 (6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時に家族と話をし、意見を吸収し可能な所から取り組んでいる。新人の職員をグループホームたよりに乗せ家族に周知している。</p>	
11 (7)	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>会議の場や、日常業務の中でも意見を聞いて貰える環境は整っている。</p>	
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>管理者は年2回の職員面談の機会を通して意見を聞いている。必要な事柄は全体に周知を図り働きやすい職場づくりに心掛けている。</p>	
13	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>一部、研修への参加の義務付けはあるが、ほとんどの外部の研修については各職員の裁量に任じてしまっている。内部研修はコロナ禍で書面での研修が多いが、見える場所に掲示し、いつでも見られるように取り組んでいる。</p>	
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p>	<p>各自が参加した研修の場で、交流を深めて</p>	

自己	外部	項目	自己評価
		代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2022年7月
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりを努めている	訪問調査時に本人の困り事や要望、生活歴についても話を聞き引き出すようにしている。ゆっくり話をしながら、関係性を作っていくように心掛けている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりを努めている	入居申し込み、訪問調査、契約の各段階で家族から話を聴き、疑問点を解決しサービスを導入できるように努めている。ケアプランの作成段階で意見を聞いている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や入居申し込みの段階でしっかりと話を聞き、サービスの導入に努めている。また、他に利用できるサービスや相談機関も提示しながら話すようにしている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築けるよう日々努めている。 利用者様が出来ない事を支援し、関係性を作りながら、お互いに暮らしを共にする関係性作りに努めている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々関係性を築けるように努めている。 家族様との直接の関りが少なくても、利用者様からの家族様のお話に耳を傾けている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍になり、なかなか馴染みの場所に行く事は出来ていないが、リモート面会などを積極的に取り入れて、家族様や親戚との関係性は途切れないよう努めている。
21		○利用者同士の関係の支援	

自己	外部	項目	自己評価 2022年7月
		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わりの合い、支え合えるような支援に努めている	日々の利用者各様運の様子を見、職員同士で話し合い、意見を出し合いながら利用者様同士で支えられるよう、支援に努めている。
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係性が途切れてしまう方の方が比較的多いが、施設から退去される方にはアルバムなどを作成し、ご家族様に渡すなどして努めている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望などを日々積極的に聞くよう努め、職員同士で報告し合い、毎月のユニット会議などでも議題にあげるよう努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。 ユニット会議などで共有し、職員全員が把握できるように努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、職員同士での申し送りなどで現状の把握が出来るよう努めている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニット会議を開き、介護計画書に見直し箇所があれば、その都度担当職員が意見を出し合いながら共有、適した介護計画書が作成出来るよう努めている。ご家族様の意見が買えていない
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を残しながら、随時職員同士で話し合い、支援の工夫をしながら努めている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	

自己	外部	項目	自己評価 2022年7月
		本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時々に生まれるニーズに対応できるよう、家族様と日々連絡を取りながら柔軟に対応出来るよう努めている。
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍になり、地域との関りが減っている。散歩などの外出を多く作る事で、地域の関りが消えないよう努めている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様が負担にならないようかかりつけ医を決めてもらうようにしているが、時にはこちらから助言として往診医を提供する事もしている。受診時には、サマリーや報告など、状態が分かるよう努めている
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専属の看護師が配置されており、その都度指示を仰ぎながら適切な対応に努めている。看護師不在時でも24時間オンコール体制を取っており、緊急時に対応出来る体制になっている。
32		○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より病院関係者と連携を取りながら、サマリーを作成し提出するなど情報の交換に努めている。退院後もスムーズにサービスを再開出来るように病院とこまめに連絡を取り合っている。平常時は各主治医との情報交換はある。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化対応方針に沿い、出来る事・出来ない事を明確にしながら話し合いをしている。大きな病気等状態が大きく変わった時には家族とともに見直すようにしている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月会議の場で前月の事故の統計を出すようにし事故を繰り返さないよう心掛けている。コロナ禍で救命救急講習は出来ていない。
35	(13)	○災害対策	

自己	外部	項目	自己評価 2022年7月
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立ち合いでの避難訓練を実施し、入居者の安全、安心を第一に考えた行動を考えている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コンプライアンスに応じた関わり方や、日々関わる中で、一人一人を理解し、その人に合った言葉掛けをするよう心掛け努めている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るよう、生活の中で声掛けなど積極的に行い、促すよう努めている。 希望があれば、希望に応じられるよう行っている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	人員不足でなかなか一人一人の希望に添えていない事もあるが、時間を戻つけて少しでも支援が出来るよう努めている。
39		○身だしなみやおしゃやれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃやれができるように支援している	支援出来ている。 本人から希望がない時には家族さんなどに情報や希望を聞きながら、その人らしさを無くさないよう努めている。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	自立されている利用者の方中心になってしまっているが、支援出来ている。 行事の特別メニューやお誕生日の特別メニューでは、好みを聞きながら応えられるよう努めている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量など、毎日記録を付け、変化がある方には随時職員や看護師も含め話し合いながら対応するように努めている。 月に1回のユニット会議で振り返りも心掛けて行っている。
42		○口腔内の清潔保持	

自己	外部	項目	自己評価 2022年7月
		口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施出来ている。 必要に応じて、往診に歯科に依頼し、口腔内の状態を診てもらっている。
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの行動を観察し、排泄のパターンを見分け、なるべくトイレで排泄が出来るよう努めている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく便秘にならないよう、細目に水分補給の時間を設けたり、ラジオ体操や施設周辺の散歩で運動の時間を設けたりと努めている。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の手合わせで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に合わせた支援をしている	時間帯や日付の希望に添えていない事が多いが、個浴の為一人ひとりがゆっくりと出来る唯一の癒し時間だと考え努めている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や状態に応じて対応できるよう努めている。 夜間帯眠れず困って居られる時には少しでも安心されるよう、傾聴などの時間を大切にしている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更などがあつた時にはいつも以上に状態観察をするよう努めている。 服薬介助時に事故が起きないように、職員間や個々で意識を持ちながら支援している。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日会や行事の出し物などで企画を立て、楽しんでいただけよう努めている。
49	(18)	○日常的な外出支援	

自己	外部	項目	自己評価	
			2022年7月	
		一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出支援はほとんど出ないが、決められた範囲内での外出が出来るよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持されている利用者さんがおられない為、支援出来ないが、希望があれば家族様と相談し決めるよう努めている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リモート通話や、手紙など、家族様との関りが減らないよう、積極的にやっている。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に意識をして工夫するように努めている。 混乱に繋がるような場面が見られた時には、随時職員で話しあい、対応するよう心掛けています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	常に利用者様の過ごし方などを見て、レイアウト変更など相談しながら行っている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族や本人と相談しながら居心地が良いよう環境作りに努めている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの行動を見ながら、把握し、事故が起きないよう工夫しながら努めている。	

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570700076
法人名	社会福祉法人 友愛
事業所名	カナリヤグループホーム ユニット逢
所在地	滋賀県守山市三宅町833
自己評価作成日	令和4年7月1日
	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

“コロナ禍での衛生面の配慮をしながら、昼食を利用者様と一緒に作っている。散歩やドライブ(少人数)に出るなど、外気に触れ季節感を感じていただけたら嬉しい。季節ごとの行事を企画し、季節感を感じ、予定を作り楽しみが出来る事があるようにしている。季節を感じる貼り絵などをレクリエーションで利用者様と作成しているLINEを取り入れた動画での面会や、写真を添付して状態の報告をする事で面会でできない家族様に少しでも安心していただけたるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元との関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応募者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

「わからない」ところは、聞く・調べるなどして「 」を埋めること！
(それも学びにつながります)

ユニット逢

外部自己	項目	自己評価
I. 理念に基づく運営		
1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、職員室に掲示し、定期的に確認する機会を持ち理解できている。コロナ禍で外に出る支援が散歩と時折のドライブ程度になっっている。
2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りなどは規模を小さくして再開している所もあるが、感染の懸念があるため参加はしていない。 散歩の時に挨拶をする程度になっている。
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを通じて認知症の方との関わり方を発信している。高校生の実習の受け入れをして認知症について学ぶ機会を作っている。
4	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行っている、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現場の実情や課題などを報告している。またグループホームなどより日々の活動も知っていただけのようにしている。会議録を回覧し、職員全員に周知できるようにしている。
5	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	集団指導や文書交付・事故報告などの機会に市の担当者と情報交換をしている。
6	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は一昼夜行ってしまうている。日中は利用者様の要望があればすぐに開錠出来るようにしている。身体拘束の定期的な研修を行っている。日常の中でスピーチロックと捉えられかねない声掛けはあり、改善に向けて研修や職員同士の声掛けも行ってている。
7	○虐待の防止の徹底	

自己	外部	項目	自己評価
			2022年7月
8	<p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p> <p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>定期的な研修を通じて学び機会を設けている。スピーチロックなど、無意識のうちに虐待につながるような職員間で声掛けを行っている</p> <p>現在当該制度を利用して入居者はいない。研修等を通して職員が制度の理解を深めて行く機会を作っている。</p>	
9	<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者が入居時に契約書等を読み上げながら説明し、その場で疑問点を確認するようにしている。変更時には文書での連絡、面会時に再度説明をおこなっている。</p>	
10 (6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時に家族と話をし、意見を吸収し可能な所から取り組んでいる。新人の職員をグループホームだよりに乗せ家族に周知している。</p>	
11 (7)	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>会議の場や、日常業務の中でも意見を聞いて貰える環境は整っている。</p>	
12	<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>管理者は年2回の職員面談の機会を通して意見を聞いている。必要な事柄は全体に周知を図り働きやすい職場づくりに心掛けている。</p>	
13	<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>一部、研修への参加の義務付けはあるが、ほとんどの外部の研修については各職員の裁量に任じてしまっている。内部研修はコロナ禍で書面での研修が多いが、見える場所に掲示し、いつでも見られるように取り組んでいる。</p>	
14	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させるべく取り組みをしている</p>	<p>各自が参加した研修の場で、交流を深めている。 認知症研修など積極的に参加を促し、研修を通して同業者とのつながりを作り意見交換する機会を設けている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価 2022年7月
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりを努めている	訪問調査時に本人の困り事や要望、生活歴についても話を聞き引き出すようにしている。ゆっくり話をしながら、関係性を作っていくように心掛けている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりを努めている	入居申し込み、訪問調査、契約の各段階で家族から話を聴き、疑問点を解決しサービスを導入できるように努めている。ケアプランの作成段階で意見を聞いている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や入居申し込みの段階でしっかりと話を聞き、サービスの導入に努めている。また、他に利用できるサービスや相談機関も提示しながら話すようにしている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を基本的に利用者様と一緒にやっている(料理・洗濯・掃除など)
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	LINEや電話を利用して、利用者様の様子や写真を送りリモート面会を行っている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人全てを知ることとは不可能だが、家族様や身内様との関係が途切れないように電話やLINEを利用している
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で一緒にゲームをしたり、調理をされたりして楽しませている。理解することが難しい利用者様には職員が間に入つて、利用者様同士の関係がうまくいくよう支援している。
22		○関係を断ち切らない取組み	

自己	外部	項目	自己評価 2022年7月
		サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られなくても、アルバムを渡したり家族様が分からないことを連絡して来られたら相談や支援できる体制を作っている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中で利用者様の思いや希望を把握出来るように努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会議等で利用者様の生活歴や暮らし方、生活環境を共有し生活しやすいように、相談や支援を行っている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に利用者様の心身状態の事や過ごし方等が記入されているので確認し、把握出来るようにしている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様を担当している職員が3ヶ月に1回、モニタリング作成しユニット会議で他職員と話し合い、ケアマネジャーに提出し、介護計画を作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には日々の様子やケアの実践結果・気づきを記入し、他職員と共有している。実践や介護計画の見直しは1ヶ月に1回行っているユニット会議で職員と話し合い見直しを行っている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で面会が出来ない状況でLINEでの面会や写真付きで状態の報告をするなど現状に合わせて柔軟に対応している。
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、地域の方々との交流は行えないが、施設内で行うイベントには楽しんで出来る事はされている。

自己	外部	項目	自己評価
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	王治医が在診をされたり、家族の送迎で受診にいかれたりされたり、本人と家族の希望で決めたいだいたい。様々な理由で受診に行かないければならない時は看護師・家族様と相談をし、サマリーを作成して医師と連携を取っている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専属の看護師が配置されており、その都度指示を仰ぎながら適切な対応に努めている。看護師不在時でも24時間オンコール体制を取っており、緊急時に対応出来る体制になっている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より病院関係者と連携を取りながら、サマリーを作成し提出するなど情報の交換に努めている。退院後もスムーズにサービスを再開出来るように病院とこまめに連絡を取り合っている。平常時は各主治医との情報交換はある。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化対応方針に沿い、出来る事・出来ない事を明確にしながら話し合いをしている。大きな病気等状態が大きく変わった時には家族とともに見直すようにしている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月会議の場で前月の事故の統計を出すようにし事故を繰り返さないよう心掛けていく。コロナ禍で救命救急講習は出来ていない。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立ち合いでの避難訓練を実施し入居者の安全、安心を第一に考えた行動を考えている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳やプライバシーを損なわないよう言葉遣いや対応に心掛けていく。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援	

自己	外部	項目	自己評価 2022年7月
		日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望を察知し、なるべく自己決定していただけるように支援している。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよう過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよう過ごしたいかを本人様に聞いたり、職員間で情報を共有している。
39		○身だしなみややおややおの支援 その人らしい身だしなみやおややおができるように支援している	身だしなみなみとして清潔には気を付けている。母の日で化粧をするなどの企画はしている
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的には利用者様と一緒に料理をし、個々の力が発揮出来るように努めている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が考えたメニューの食事となっている。咀嚼や嚥下の状態に合わせて刻んだり、ペーストにしたりして提供している。食事量と水分量は記録に残している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様に声掛けをし、口腔ケアを行っている。訪問歯科もこれれ口腔状態を日々みてもらっている。
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立が難しい利用者様には時間を決めてトイレ誘導を行い、なるべくトイレで排泄していただけるよう支援している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の促しや体操を取り入れている。下剤の服用も取り入れている。
45	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援	

自己	外部	項目	自己評価 2022年7月
		一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を行っている。利用者様一人 ひとりのスタイルで入浴できるように努めて いる。
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じ て、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支 援している		自立されている利用者様は休憩したいとき に居室に戻り休憩をされている。体調不良 だったり、寝不足の利用者様がいたら、声掛 けして居室で休むよう促している。
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている		薬の目的や副作用、用法については看護師 や主治医と相談等行い、指示を仰いでい る。
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている		楽しみごとや気分転換はレクリエーションと して参加していただいていることの方が多 い。好きな食べ物・飲み物は利用者様に聞 いて誕生日やイベントに提供している。
49 (18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出か けられるよう支援に努めている。又、普段は行け ないような場所でも、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら出かけられるように 支援している		散歩やドライブも外出支援として取り入れて いるが、職員不足や天候の都合だったり、 日によって行えていない。地域の方々との 交流はコロナの為、行えていない。
50	○お金の所持や使うこととの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解し ており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所 持したり使えるように支援している		利用者様が自己管理することが難しい為、 職員が管理をしている。
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている		家族様や利用者様に希望により、テレビ電 話を行っている。また、家族様と利用者様で 手紙の交換も行っている。
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり		

自己	外部	項目	自己評価 2022年7月
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様にとって不快や混乱・刺激がないよう配慮している。季節の塗り絵や飾り付けなど行っている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で日向ぼっこや利用者様同士とトランプや塗り絵などされている。
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が入居される際に、馴染みの物を持ってこられ居室においている。ADLにあわせてベットや家具の配置を考え変えている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内全てではないが、トイレや廊下などに手摺をつけており、利用者様の居室に必要な方だけタッチアップ手摺を設置している。	